

駒林小 学校便り

令和5年度
3月号
2月29日発行

やりがい・教師魂

校長 西尾 武泰

3月を迎え、令和5年度も最後の一か月となりました。インフルエンザが流行りそうな時期もありましたが現在は徐々に感染も収まってきています。新型コロナウイルスと合わせての感染症対策ですがこれからもしっかりと行っていきます。

私は他の職業に就いた人からたびたび「教師のやりがいって何?」「先生の醍醐味ってどんなところ?」と聞かれることがあります。そのような時には迷わず「感動の瞬間に一番近くで立ち会えること。」と答えています。学校の中で子どもが「出来た。」「わかった。」と自分の課題を解決した瞬間は必ず笑顔になります。周りで応援していた子から歓声が上がることもあります。掛け算九九が言えるようになったとき、跳び箱が跳べたときなど、どれも子どもたちのこれまでの人生の中で初めてできたその感動の瞬間に、教師として一番近くで立ち会えるのです。私はそれが教師としてのやりがいや醍醐味だと思っています。

このような感動の場面に立ち会うためには教材研究がかかせません。難しい単元になればなるほど教師魂に火がつき「どうやったらわかりやすく教えられるだろうか。」「この発問は子どもたちにはわかるかな。」などなど、1時間の授業のために頭を悩ませ、誰もいない教室でリハーサルをすることもあります。自分の姿を動画で撮って確認したり、他のクラスの担任に見てもらいアドバイスをしてもらったりすることも多々あります。このように準備をしてから実際に授業をして子どもたちの「出来た。」「わかった。」の笑顔が見られた瞬間に私たち教師も笑顔になり教師魂もさらに磨かれていきます。

3月19日は卒業式です。6年生にとっては駒林小学校での最終日。一番成長した日です。「駒林小学校の心」という立場で一年間頑張り通した姿はきっと立派で美しいはずです。この日の感動の場面に立ち会えるように、こちらもしっかりと準備をしていきたいです。

この一年間、保護者、地域の皆様には学校へのご協力をいただきありがとうございました。創立50周年の年度でしたので、たくさんの行事やイベントがありましたが無事に終えることが出来ました。皆様にはたくさんのご協力とご支援をいただいたことに感謝しています。

本当にお世話になりました。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

